

Abstract

総 説

月経過多以外の症状：血液凝固異常症の産科婦人科関連の症状に関するレビュー

More than menorrhagia: a review of the obstetric and gynaecological manifestations of bleeding disorders

A. H. James

血液凝固異常症を有する女性において月経過多は最も一般的にみられる症状であるが、この症状が血液凝固異常症女性が経験する唯一の生殖器官関連の症状ではない。今回のレビューの結果、これらの疾患を有する女性は、出血性卵巣嚢胞そして可能性として子宮内膜症の発症リスクが高いと考えられた。さらに、加齢に伴って、これらの女性では子宮筋腫や子宮内膜増殖症、子宮内膜ポリープなどの出血を伴う疾患の発症頻度が高くなると考えられた。これらの女性では子宮摘出術の施行頻度も高いことに加え、若年での外科手術施行頻度が高い傾向がみられ

た。また、これらの女性では流産および妊娠中の出血性合併症のリスクが高いようであった。分娩時においては、分娩後出血、特に遅発性あるいは二次的な分娩後出血を経験する可能性が高いと考えられた。血液凝固異常症のない女性では腔血腫や外陰血腫は極めて稀であるが、血液凝固異常症を有する女性では稀ではない。血液凝固異常症を有する女性は、他のすべての女性が罹患しうる産科婦人科疾患のリスクを同様に有するが、注目すべきは、これらの女性では出血を伴って発症する疾患による影響をより受けやすいと考えられた点である。